

歌川広重 浮世絵ぬりえ
にチャレ〜ン〜ン!

おすすす
大津
れきはく

2020年8月
発行：大津市歴史博物館



【伊勢利板】木曾海道六拾九次之内 大津 天保9年（1838）本館蔵

ヒロ印を
さがしてみよう!

上の絵にも
かかっているよ

ヒント

屋根の近く



がこっそりか
くされている
ものがあるよ。
さがしてみよう!

ヒロ印は、広重のはんこ
(シンボルマーク)だよ。
広重の「ひろ」をカタカナ
にして、デザインにしたん
だ。広重の作品にはヒロ印

一、浮世絵とは?

浮世絵は江戸時代の前期にできた絵画のジャンルだよ。描かれるテーマは暮らし、流行などで、白黒の墨絵から始まったんだ。のちに彩色がされるようになってカラフルになっていったんだよ。

一、歌川広重はどんな人?

歌川広重は江戸時代に活躍した浮世絵師だよ。日本の名所やきれいな風景を描く名所絵が有名で、広重の作品は日本だけじゃなく、海外でも人気だったんだよ。ゴッホやモネといった画家達にも影響を与えてくらしいすごい人なんだ。



どんな絵なの?

【伊勢利板】木曾海道六拾九次は、歌川広重と溪斎英泉が木曾海道（中山道）の宿場など70ヶ所を描いた作品で、「大津宿」で完結するんだ。旅籠が八町通り（上栄町あたり）の両側に軒を連ねて続く街並みが描かれているよ。旅籠は旅人が食事や宿泊するところで、今でいうホテルや旅館だよ。大津宿には旅籠が当時71軒もあったそうだよ。坂道を下ったその先は琵琶湖が広がる大変美しい景色だった事が分かるね。琵琶湖の向こう側に見えるのは比良山系の山並みだよ。逢坂越の入口と湖岸ではかなりの高低差があるけれど、その坂の様子がよく分かるね。

ぬりえができたら、ツイッターに
#遊ぼう大津れきはく
のハッシュタグをつけて

ぜひ投稿しようね!

